



いなほ

稲積神社社報

第29号

平成20年5月3日発行



古りし街ゆらして祭りの通りけり

塩島はる子氏

毎月一日に斉行される月始祭
参列者全員での神恩感謝・大祓詞奏上の様子

正ノ木例大祭式次第

定刻

手水の儀

修祓の儀

宮司一拝

宮司御扉を開く

欄以下神饌を供す

宮司祝詞を奏す

浦安の舞

玉串拝礼

宮司遷御の祝詞を奏す

遷御

宮司遷御の祝詞を奏す

宮司一拝

宮司祝詞を奏す

遷御

宮司祝詞を奏す

遷御

宮司祝詞を奏す

遷御

宮司祝詞を奏す

遷御

宮司祝詞を奏す

遷御

平成二十年度正ノ木例大祭神賑行事(予定)

五月二日(金)

献木祭 午前10時

甲府商工会議所(境内)

前後祭 午後6時(社殿)

飯野のり子歌謡シヨ(舞台)

午後6時~9時

三日(土)

大祭 午前10時

御輿渡御 午前11時~午後4時

奉納相撲 相撲甚句

午後11時~午後3時

バザー

カラオケ大会 午後6時~8時

四日(日)

二ノ祭 午前9時

甲府囃子

コンサート STUDIO b d g

午後2時~8時

五日(月)

三ノ祭 午前9時

童謡ちゃんこの会 午後2時~3時

コンサート ヒコ

午後11時~5時

成就祭 午後6時



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮



所感

宮司 根津泰昇

今日学力の低下、礼節の欠乏が取り沙汰されており、境内で親子が楽しく遊んでいる姿は、無邪気で純粹に映ります。この子供達に、昨今のみだれている風習が身につけてしまつたら、大変な時代が予想されます。

親が子を殺し、子が親を殺す。また誰でも良いから人を殺したい願望を持つ無差別殺人、何を思い考えているのか理解に苦しみます。与えられた「生命」の尊さと「生かされている」ことへの感謝の心を培って欲しいと感じます。

「日本の心」の大切さは、教育勅語の十二徳に、孝行、友愛、夫婦の和、明友の信、謙遜、博愛、修学習業、知能啓発、徳器成就、公益世

務、遵法、義勇とあります。この「日本の心」の精神を、どこかに置き去りにしてきてしまつたのも事実でしょう。祈る「信仰の心」、ありがたいと思う「感謝の心」も薄らいできています。私達が生活しているのは、神様から授かつた尊い命が「生氣」として躍動しているのです、生かされて、守られている事の「感謝の心」と、神に手を合わせ安泰を願う「信仰の心」を養うことが、今の時代に最も大切なことだと感じます。

儒教、仏教の伝来は確かに日本を急速に近代化してきました。しかしそれ以前は「神の国」であり、神話が「日本の心」を語っています。

「天岩戸」の話では、須佐之男命があまりにも乱暴を働くので、姉君の天照大御神が天岩戸にお隠れになつてしまいました。すると明るさを失つた暗夜が日々続きました。そこで神々が天岩戸の前で舞を踊る事にしました。天照大御神が岩の外に出られ明るさを取り戻しました。須佐之男命は、乱暴を繰り返した人々に迷惑をかけた事を反省し、出雲の国へ修業の旅に出られた話であります。

乱暴を振る舞う事により人々に多大な迷惑をかけた事への「反省の心」を伝えていきます。出雲の国への修業に出かけた須佐之男命は、櫛名田比売を大蛇から助ける「八俣の大蛇」の神話があります。この話では、困っている人を助ける「勇氣」と「情」を伝えていきます。また「情」と「情」の縁から「和」が生じ「家庭」が誕生しました。

古より、反省する謙虚さが養われることにより、知能啓発の如く進歩があり、「情」の心を養うことにより、公益世務の精神、広く世の人々や

が天岩戸にお隠れになつてしまいました。すると明るさを失つた暗夜が日々続きました。そこで神々が天岩戸の前で舞を踊る事にしました。天照大御神が岩の外に出られ明るさを取り戻しました。須佐之男命は、乱暴を繰り返した人々に迷惑をかけた事を反省し、出雲の国へ修業の旅に出られた話であります。

乱暴を振る舞う事により人々に多大な迷惑をかけた事への「反省の心」を伝えていきます。出雲の国への修業に出かけた須佐之男命は、櫛名田比売を大蛇から助ける「八俣の大蛇」の神話があります。この話では、困っている人を助ける「勇氣」と「情」を伝えていきます。また「情」と「情」の縁から「和」が生じ「家庭」が誕生しました。

古より、反省する謙虚さが養われることにより、知能啓発の如く進歩があり、「情」の心を養うことにより、公益世務の精神、広く世の人々や

社会の為になる精神が養われ、その「情」と「情」の結びつきから「家庭、家族」が生まれてきました。このようにして培われてきた神話には、今薄らいでいく古来よりの「日本の心」が記されており、その心こそ、祖先が現代にも伝えていきたかつた人生観、社会観でありましょう。伝統を重んじる日本民族の「日本の心」を崇敬者と共に若い世代に神社の杜から継承しなくてはいけないと感じております。

六月一日 夏越大祓・万灯祭
七月十五日 瘡子社例祭
八月 富士ヶ嶺開拓祭
九月二十日 崇敬者大祭
十月十日 金刀比羅神社例祭
二十六日〜二十八日 甲府伊勢講千社詣の旅
伊弉諾神宮正式参拝、淡路海峡大橋、野島断層の淡路島、オリブ百年祭と二十四の瞳をたずねる小豆島二泊三日の旅
十一月二十三日 新嘗祭
十二月三十一日 年越大祓



祭典行事歴

(五月〜十二月)

毎月 一日 月始祭
三日 月次祭
十五日 神恩感謝祭
古神札
焚上げ祭

五月二日 献木祭
正ノ木大祭前夜祭

三日 正ノ木例祭
四日 大祭特別祈願祭
二ノ祭

五日 三ノ祭
正ノ木大祭終了祭
お田植祭

六月一日 夏越大祓・万灯祭
七月十五日 瘡子社例祭
八月 富士ヶ嶺開拓祭
九月二十日 崇敬者大祭
十月十日 金刀比羅神社例祭
二十六日〜二十八日 甲府伊勢講千社詣の旅
伊弉諾神宮正式参拝、淡路海峡大橋、野島断層の淡路島、オリブ百年祭と二十四の瞳をたずねる小豆島二泊三日の旅
十一月二十三日 新嘗祭
十二月三十一日 年越大祓

神社にお参り

しましう!!

日本の文化 —— 箸を大切に日本人 ——

箸は「食ト口トノ間ヲ渡ス意ト云フ。或ハ竹ノ端ト端トニテ挟メバ云フカ」、物ヲ挟ムニ用キ、食事ナドスル具。古ヘノ箸ハ、一条ノモノヲ折り曲ゲテ、其兩ノ端ニテ挟ミシナリ、後、竹、木、象牙ナドニテ、細長ク作り、二本ヲ合ハセテ、指ノ間ニ持チテ用キル。今ハ割箸モアリ」

箸を使って食事をする国は、神代から伝わる日本人の文化である。神話の中で、須佐之男命が高天原から追放されて、出雲国へ天降り、川のほとりに立って、箸が川上から流れてくるのを発見し、上流に人が住んでいるにちがいないと思つて訪ねて行くと、おじいさんとおばあさんが娘を中において泣いていた。有名な八岐大蛇退治の話に続く部分である。古代社会で箸が人間生活の象徴としてとらえられていたことがわかる。

中でも大切に扱われ、さまざまの箸にまつわるタブーも生まれた。さらには割箸という独特の文化も生ずるに至った。神事の中で神饌とともに特別な箸を添える古社がたくさんある。檜、杉、柳などが多く、手で削つた箸を供えることが多い。天皇の即位大嘗祭には、竹の折箸(竹の中ほどを折つて麻糸を通し、ハサミ状にしたもの)が使われるという。また、夏祭りなどには青茅の箸が使われるなど、身近な木や竹を利用してきたことがわかる。

人間は食べ物を体内に摂取することにより、活力を得て生活することができる。その橋渡しをする食器を「ハシ(箸)」といった。私たち日本人にとつては必要欠くべからざる道具である。ゆえに日常生活の

祈りを強烈に込めたのであった。箸は、生命力のシンボルとされ、使う人の霊力が宿るとされるようになったとされ、大切に箸箱に入れ、他人の使用を嫌った。箸は東アジア全域で使われる食器であるが、日本では独特のマナーや信仰にまつわる箸の文化が生まれた。

崇敬会だより

当神社崇敬会は日頃崇敬いただいている皆様方とのつながりをより一層深め、稲荷大御神の御神威の守り、健全な日本の文化・伝統を守り、健全なる国民精神の高揚を計ると共に各々の家運の隆昌を願ひ清く明るく社会づくりに寄与する事を目的とした会です。

当神社を崇敬し、会の趣旨に御賛同の方はどなたでも入会できますので、是非御入会下さいませ御案内申し上げます。

◎会費(年会費)
 会 員 五千元
 正 会 員 一万元
 特別会員 二万円
 入会申込は、御参拝の折に社務所受付にて申込まれるか、崇敬会入会申込書に御住所御氏名等を明記の上、郵送かFAX又はホームページから申下さいます。

第四回 崇敬会大祭

平成二十年九月二十日(土)
 崇敬会大祭 午後 二時
 記念式典 二時三十分
 記念講演 三時
 懇親会 四時

奉納

- 樋口 育生様
- 赤白幕 擬宝珠金具、四神旗金具、日月錦旗金具、社名旗金具、手水舎簀子、参道工事資材
- 石坂 正夫様
- 参道石材
- 土肥 真澄様
- ガス器具
- 株式会社東邦観光サーヴィス 赤白幕
- 佐藤 久良様
- 榊 郁三様
- 紫壇衝立 水琴窟
- 敬神婦人会
- テント
- 崇 敬 会
- 神職正服
- 五味 隆彦様
- 参道工事重機提供
- 参道 工事 奉仕
- 総代会 崇敬会、甲府伊勢講 崇敬青年会、ソフトボール部 稲積睦、雅楽会、敬神婦人会 崇敬会友の会、いなほ会、いなづみ会
- 山梨中央水産株
- 月始祭神饌 水産物

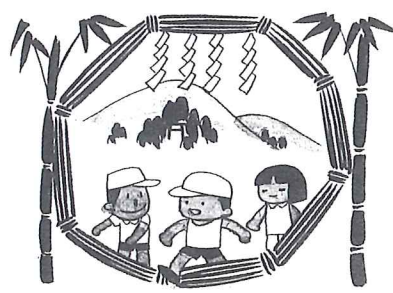
夏越火祓式の御案内

大祓は六月三十日と十二月三十一日の年二回、半年毎に全国の神社で執り行われ、私たちが知らず知らずのうちに犯した罪汚れを祓い清める神事です。

特に六月の祓は「夏越の祓する人は千歳の命延ぶ」と謳われているようにちの輪をくぐり邪気を祓い暑い夏を元気で過ごせるようお願いが込められています。

当神社でも六月三十日に午後五時に斎行致しますので是非御家族お揃いで御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。



10/26 (日)	甲府各地 中央高速~名神高速~山陽自動車道 淡路海峡大橋(昼食~眺望) 野島断層保存館 伊弉諾神宮(正式参拝) 洲本温泉(泊) 16:30	朝× 昼○ 夜○
10/27 (月)	洲本温泉 淡路鳴門自動車道~高松自動車道 高松港~フェリー~土庄港(昼食) 平和の群像 二十四の瞳映画村 オリブ園(オリブ百年祭) 小豆島(泊) 16:30 ※到着後、エンジェルロードへ散歩	朝○ 昼○ 夜○
10/28 (火)	小豆島 海産物ショッピング 紅葉亭++++ロープウェイ++++寒霞渓散策 大部港 (フェリー~昼食精進) 日生港 山陽道~名神高速~中央高速 甲府各地 20:30	朝○ 昼× 夜×

添乗員は同行させていただきます。交通機関並びに時刻は変更になる場合があります。
 ○ご宿泊予定ホテル：10月26日(日) 洲本温泉 ホテルニューアワジ ☎0799-23-2200
 10月27日(月) 小豆島 小豆島国際ホテル ☎0879-62-2111

【案内】
甲府伊勢講千社詣りの旅

伊弉諾神宮正式参拝と淡路島・小豆島の旅
 淡路海峡大橋・野島断層の
 淡路島・オリブ百年祭と二十四の瞳をたずねる小豆島

◎ 旅のみどころ ◎

【伊弉諾神宮正式参拝】
 古事記・日本書記には国生みに始まるすべての神功を果たされた伊弉諾大神が御子神なる天照大御神に国家統治の大業を委譲され最初にお生みになられた淡路島の多賀の地に幽宮を構えて余生を過ごされたと帰される。日本創世の神の御社です。

【二十四の瞳映画村】
 昭和61年、映画撮影舞台の中心となったオープンセット。撮影後、松竹より地元旧内海町が施設を譲り受け、昭和62年7月現在の二十四の瞳映画村となった。

【寒霞渓】
 日本三大渓谷美のひとつ寒霞渓、200万年の歳月が創りだした日本屈指の渓谷美。風雨の浸食により創られた希岩、垂直にそそり立つ大岩壁の中をいくロープウェイからの眺めは、小豆島が誇る景勝地です。

境内 参道整備

何方にもお参りし易い様にとバリアフリーの境内施設を目差す事業の一環である車イス等の方が移動し易い様にと石畳参道を四月六日と十三日の二日間に亘り崇敬青年会の会員五味隆彦、志村礼二両氏を中心に稲積神社外郭団体に所属する会員が奉仕した。

五味・志村両氏の指導、監督の元、作業は順調に進み二日間の作業は無事終了となった。今後もお参りし易い神社を目指し境内整備を進めて参りたいと思います。

二日間に亘り御奉仕戴いた五味・志村両氏を始め外郭団体各会員の皆様、参道完成反省会に美味しい手料理を提供して下さいました敬神婦人会の皆様方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。



奉納

敷石
 (南)石坂石材 石坂正夫殿

月始祭

月参り、毎月一日午前十時より月始祭が行われている。神事はおはらいの後参列者一同で神恩感謝、大祓詞奏上と宮司による月始祭並崇敬会会員の誕生祭の祝詞が奏上され、各々玉串奉奠、月毎の御幣、神札を受け御自宅、会社等の神棚に祀る。

又毎月この月始祭に山梨中央水産株式会社(仙洞田寿社長)様より水産物が奉納されています。

毎月の始めの一日に家族を始め皆様でお参り戴き各月の御守護、心願成就参りをおすすめします。

尚、崇敬会々員の皆様には誕生月、誕生祭参列を合わせ御案内しております。



雅楽(ががく) 始めてみませんか。

雅楽は千数百年に及ぶ悠久の歴史を持つわが国最古の音楽です。是非、貴方もこの機会に雅楽を始めてみませんか。

笙(しょう) 篳篥(ひちりき) 吹いてみよう。

稽古日 毎週水曜日 午後五時から
 稽古場所 神社参集殿

命継ぐ食もの衣もの住むいへも
 稲荷の神の恵みなりけり

正ノ木稲荷大明神

稲積神社

甲府市太田町公園内鎮座
 電話 (055) 233-5573
 FAX (055) 226-0787